

校訓	真善美	令和6年度 学校だより	発行日	令和6年6月28日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 感謝する心、確かな学力、健やかな心を育てる	「荒中だより」 6月 水無月 June 第14号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

教育実習生の先生方、3週間、ありがとうございました



1 学期の期末テストが終わりましたが、全力を発揮することができましたか？ テストは、結果が大切です。ただその点数だけに一喜一憂するのではなく、家庭学習の時間の使い方等、計画的に悔いなく取り組めたかをしっかりと振り返り、次は、夏休みの生活計画に生かしてください。

さて今日は6月 10 日から3週間の教育実習最終日でした。「自分から先にあいさつをする」を心がけて、先生方にたくさんのことを教えてもらえましたか？ 先生方との出逢い『一期一会』を財産に自分の人生、将来を見つめてみてください。

【教育実習生のみなさんにインタビューしました】

Q.教職課程を目指した理由

A. ●自然学校や児童クラブのアルバイトを経験し、子どもたちの成長を側でみられる仕事は素敵だと感じ、教育関係の仕事がしたいと思うようになりました。教育関係の仕事は他にもありますが、私は特に中学校の先生にお世話になった思い出があるので、中学校の教師を目指しました。

●元々教えるということが好きで、中学校の担任と顧問であった先生に憧れました。厳しく、たくさん怒られましたが、怒られるのも理由があり、今では、優しさの中にあつた厳しさだったなと思います。そんな先生に教えていただき、自分自身も生徒に対して何かを学び、与えたいと思い教職課程を目指しました。

●私が教職課程を目指した理由は、数学は楽しい教科だとひとりでも多くの子どもに思ってもらえるように、授業を通して伝えたいと思ったからです。これまでも友人からわからない問題を聞かれる事が多く、教える度にやりがいを感じ、理解してもらえたときのうれしさが教師になりたいと、より強く思うきっかけとなりました。

●元々教師の仕事に興味があり、1年生の秋から教職に関する授業を取り始めました。講義を受けているうちに生徒の立場ではわからなかったこと、大変さ、奥深さなどの魅力を感じ、将来の職業選択の幅をひろげるつもりで、教職課程をとりました。

●中学2年生のトライやる・ウィークで幼稚園に行かせてもらいました。その際、どんなに疲れていても、子どもたちと関わり笑顔を見ることが何にも代えがたい幸せな気持ちになることができました。この経験から、将来子どもに関わる仕事に就こうと決意しました。大学選択の時は国際系に興味があったため今の学部を選びましたが、教職課程の授業を通して、やはり自分は教師になりたいのだという思いを再確認し、中学校の英語教師を目指しています。

●小学生の頃から教師を目指しており、現在もアルバイトで塾の講師をしています。実際に、生徒と関わることで、人として成長する姿をみたり、テストの点数を喜んで見せに来てくれる姿をみたりすることに喜びを感じています。将来、生徒とともに成長できる仕事で関わりたいと考えています。

●小学校から高校まで、私自身の人生、生き方に学校という存在は大きな影響を与えてくれました。生徒に直接的に深く関わることのできる教職課程を目指しました。

